

## 新年度を迎えて

副会長 山本 耕平



桜花爛漫の頃となりました。巷には新入社員や新入生のういういしい姿があふれ、爽やかで元気な気分になります。

さて、4月はトイレの季節です。というのも、ぴかぴかの一年生にとっては学校のトイレ、和式しかない学校も多い（文科省の調査では公立小中学校の洋式便器が占める割合は43.3%で、いまだ和式が6割近くを占める）ので子供たちにとってトイレは大問題です。新入社員の中には、慣れない仕事と通勤のストレスで過敏性腸症候群（神経性下痢症）になる人も少なくないでしょう。ということで4月はトイレの季節というわけです。

ところで、春先からトイレに関する新たな政策がいくつか打ち出されました。東京都の小池知事は、2017年度予算案に学校や公共施設、都営地下鉄などのトイレ洋式化のために37億6700万円の事業費を盛り込みました。なんと前年度から約30億円の増。都は2020年度までに、都営地下鉄の駅の9割、公立小中学校の8割のトイレを洋式化する目標を掲げています。区市町村への財政支援や民間旅館やホテルにも助成し、洋式化を一気に進める意向のようです。

国の観光庁も外国人観光客の増加にともなって、観光地の公衆トイレの洋式化を促進する方針を打ち出しています。公衆トイレを管理する自治体に対して、洋式化のための財政支援する制度を創設するそうです。

さらに2月に政府の「ユニバーサルデザイン2020行動計画」が決定され、パラリンピックに向けてハードの整備とソフトの取り組み（心のバリアフリー）についての方針が定められました。この中でもトイレは重要な課題として取り上げられています。

日本はトイレ先進国だと思っておりましたが、各国の追い上げは激しく、特に中国では2015年にトイレ革命3カ年計画というのを発表し、125億元（約1930億円）の予算をつけて数万カ所の観光地や一般の公衆トイレの改善、新設を進めているといいます。ベトナムのハノイやホーチミンでもびっくりするような公衆トイレがつくられていると聞いています。

30年前を思い起こすと、中国やその他の国々の現状とたいした違いはなかったように思います。しかし機器の進化、マナーの向上、職人技ともいえる清掃など、日本のトイレは独自に進化し、世界に注目されるようになりました。日本の後を追う国々では、この先、日本のトイレがどのように発展・進化していくのか注目しているに違いありません。2020年が近づくなかで、トイレ革命をリードしてきたわが日本トイレ協会としても、世界に目を向けて活動を展開していく必要があります。というのが新年度を迎えるにあたっての所感です。（㈱ダイナック都市環境研究所 代表取締役）

今年度より日本トイレ協会法人会員として入会致しました株式会社アルボースです。どうぞよろしくお願い致します。簡単ですが、当社の概要と商品についてご紹介させていただきます。

## 1. 会社概要

当社は、1951年に手洗い石鹼液を開発して以来、一貫して環境衛生の向上に貢献することを目的として清潔で安全・快適な環境づくりに努めてきました。今日では、様々なご要望に応えるべく、総合衛生メーカーとして幅広い分野において「洗浄・殺菌・消毒」に関する製品群とこれらを正しく有効に機能させる衛生管理システムを提供しています。

私たちを取り巻く環境は、インフルエンザ、ノロウイルスを始め公衆衛生上の懸案となる新興・再興の感染症が報告されていますが、今後もこれらの発生や流行が起り得ることは否定できません。当社は感染対策の一端を担う企業として、これからもお役に立つ製品とサービスを通じ、より清潔で安全・快適な環境の実現を目指してまいります。

## 2. 主な業務内容

- 医薬品・医薬部外品・化粧品の製造・販売
- 厨房、調理用機器、各種洗剤の製造・販売
- 医療器具用洗浄剤、介護施設用洗浄剤の製造・販売
- 衛生用品および日用品雑貨の販売



アルボース石鹼液

手指消毒剤アルボナース

## 3. 当社とトイレの関係

当社では、トイレ空間の衛生向上のために便座除菌クリーナーを製造・販売しています。業界で唯一のジェルタイプである『クリーンジェル』は、まだ便座除菌クリーナーの設置が主流でなかった頃からご愛顧いただいている商品です。この商品の専用ディスペンサーは、トイレの雰囲気に合わせてデザインをお選びいただけるため、ご好評をいただいております。さらに、近年大きな問題となっているノロウイルスの対策が可能な『クリーンリキッド EX』の販売も開始しました。これらの商品は多くのトイレで採用していただいております。最近では、洋式トイレの増加に伴い仮設トイレでも採用いただいております。



クリーンジェルカートリッジと専用ディスペンサー



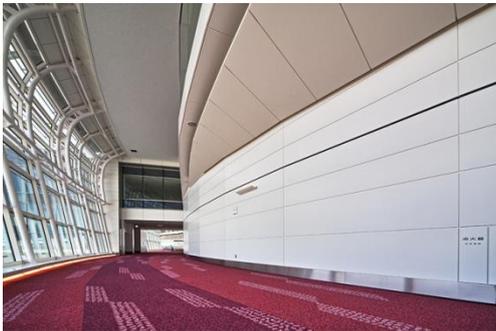
クリーンリキッド EX と専用ディスペンサー

近年は、海外との交流が増えたことで衛生環境が多様化してきました。もちろん、それはトイレ空間でも同様です。今後は、日本トイレ協会様や会員の皆様との交流、情報交換を通じてより良い製品開発へと繋げ、豊富な製品と万全のシステムでお客様をトータルサポートしていけるよう努めてまいります。今後ともよろしくお願い致します。（商品クリエイト部 商品企画課 橋口 好史）

今年度から日本トイレ協会法人会員になりましたコマニー株式会社です。今までは個人会員としてお世話になっていましたが、今年度から法人会員としてよろしくお願いたします。

## 【会社概要】

本社所在地	〒923-8502 石川県小松市工業団地 1-93 (国民栄誉賞を受賞した松井秀喜の実家がすぐ近くです。)
創業	1961年(昭和36年)
従業員数	920名
主な事業内容	パーティション(間仕切り)の製造・販売・設計・施工 北海道から沖縄まで、オフィスや学校・病院・工場・公共施設などみなさんの身近なところでパーティションを使って頂いています。 最近では中国やシンガポールなど海外にも力をいれています。
ショールーム	東京、大阪、仙台、福岡



## 【トイレへの取り組み】

公共トイレのトイレブースを作っています。

幼稚園や学校では子どもが怖がらずにトイレに行けるようになるべく怪我をしないようにと明るく楽しい安全なトイレを目指しています。上段の写真は幼稚園用のトイレブースです。背の小さな子どもはしっかり隠れますが、大人は外から見守れるブース高さになっています。

中段の写真は小学校のトイレブースです。大便でもなるべく恥ずかしがらずにいけるように、扉の色をひとつずつ変えてカラフルな楽しいトイレにしました。

下段の写真は、空港のトイレブースです。スーツケースを持ったまま入れるように、車いすも入れるように、扉を折戸にしてブース内スペースを広くとっています。この折戸『Dear-d』は2016年度のグッドデザイン賞を頂きました。

コマニーでは、少しでも多くの人に快適にトイレを使ってもらえるように、お年寄りや子ども連れ、車いすの人などお客様の声を大切に、お客様と一緒にトイレ空間を作っています。(高橋未樹子)



# 『台湾衛浴文化協会（台湾トイレ協会）からの招聘講演』報告 I

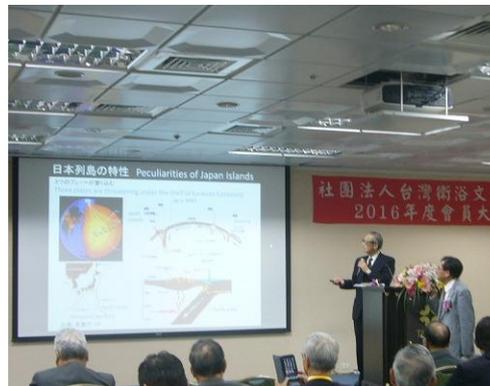
会長 高橋 志保彦

去る 2016 年 12 月 15 日に台湾衛浴文化協会（台湾トイレ協会／TTA）の定時総会が台北で開催されました。招聘されて高橋志保彦と谷本亘氏が標記「防災・災害用トイレ」について講演して参りました。

日本列島は太平洋プレートやフィリピン海プレートがユーラシアプレートの下に潜り込むため、跳ね返りで地震が起きますが、台湾はユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境部分にあり、地質構造は複雑。フィリピン海プレートの下に潜ったユーラシアプレートが剥がれて、隆起したと言われます。大きな地震は、1999 年 9 月 21 日にマグニチュード 7.3 のチチ大地震が発生しています。ところが台湾ではこれまでそれほど大きな地震・津波の災害が無いと皆さんが言い、2016 年 2 月 6 日台南でビルが倒れて死傷者が出た日本で大きなニュースとなった件も、手抜き工事によるビル倒壊というレアケースで一般的にはそれほど災害を意識していないようです。しかし台南の地震は M6.6 なので、防災に関してはもっと真剣に対策を立てる必要があると思われまます。

総会の参加者は、游明國理事長を始めとする TTA のメンバーの他に、初代理事長故呉明修先生の奥様と息女 Michelle Wu さんも駆けつけて下さり、また台北市政府環境保全局の盧世昌副局長が出席され、熱心に最後まで聴いて下さいました。通訳は第 2 代理事長鄭政利先生が労を取って下さいました。

講演後の皆さんの感想は、「台湾もいつ大きな災害があるかもしれない。準備はしておかなければならない。注意喚起には大変有意義な講義であった。」そして盧世昌副局長は「台北市もしっかり考えていかなければならない。」そして後日頂いた礼状には「もっとアドヴァイスを頂く機会が欲しい」と書かれていました。私高橋の講演は、PPT と配布資料によって行いましたが、本誌では参加者に配布した、講演内容が俯瞰できるレジюмеを掲載します。



講演中の様子

## <レジюме>

1. 日本のインフラストラクチャの現状普及率  
上水 100%、下水 80%+浄化槽でほぼ 100%、電気 100%
2. 日本列島の特殊性  
日本列島の下に潜り込む 5 つのプレート  
揺れ動く国土・・・地震、火山噴火・・・台湾は？
3. 災害・・・地震、津波はどこでも起こりうる  
阪神・淡路大震災 1995 年 1 月 17 日  
新潟県中越地震 2004 年 10 月 23 日  
東日本大震災 2011 年 3 月 11 日  
熊本地震 2016 年 4 月 14 日  
鳥取地震 2016 年 10 月 21 日

●南海トラフ地震、首都直下地震・・・今後 30 年以内に 70%の確率で発生

#### 4. 人間の生理・・・摂取と排泄

排泄・・・1日5回トイレ ⇒ 災害時どうする  
災害時には原始時代に戻る。

災害時にはいつもトイレ問題が起きる

#### 5. 災害時に必要となる用意しておくべきトイレ（備蓄の必要性）

自助・共助・・・簡易トイレ、携帯トイレ、  
公助・・・仮設トイレ

⇒●簡易トイレ、携帯トイレは各自備蓄

●仮設トイレはすぐには配送されない

●携帯トイレメーカーにも生産能力の限界あり。3日間では大量には作れない

#### 6. 日本の政府発表・・・災害時のトイレ問題

3日間は自助・共助・・・各自備蓄してほしい

4日目にプッシュ型支援（公助）・・・政府がトイレを配送する

●南海トラフ地震では5,442万回分のトイレが必要（政府見解）

●首都直下地震では3,150万回分のトイレが必要（政府見解）

3日間の備蓄・・・5回分×3日=15回分/人

3日から7日分・・・15回分~35回分/1人

4人家族で60回分~140回分

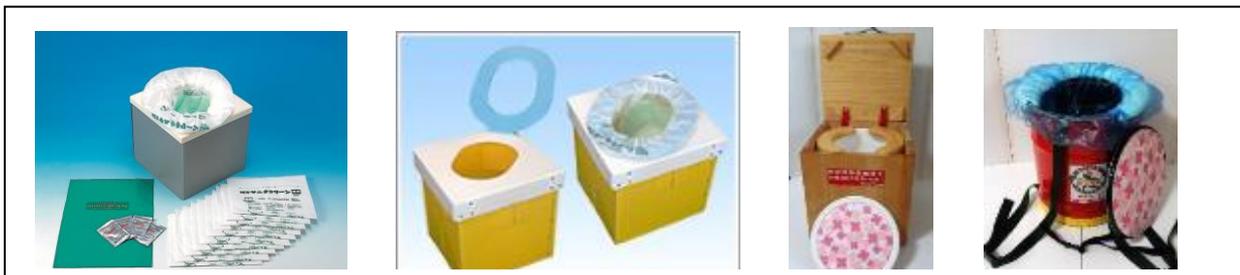
#### 7. 現状での備蓄率

（一社）日本トイレ協会でアンケート調査実施・・・16%しかない（大問題である）

⇒今後80%まで上げたい。日本トイレ協会が備蓄の必要性を国民にPR活動開始  
台湾はどうか？・・・同様の調査の提案。

#### 8. 問題点

備蓄トイレ量と生産能力



<disposable vinyl bag toilet>



# 『台湾衛浴文化協会（台湾トイレ協会）からの招聘講演』報告 II

運営委員 谷本 亘（日野興業(株)営業企画部部長）

この度台湾トイレ協会/TTAからのご依頼を受け、高橋会長と共に講演をして参りました。私の講演タイトルは「日本の災害時におけるトイレ事情と最新の仮設トイレについて」日本では災害時にどんな種類の仮設トイレが被災地へ送られるのか、またそれぞれのトイレの特徴、災害時特有の仮設トイレ設置時の注意等を、昨年4月の熊本地震での弊社の対応の実例を挙げながらご説明しました。また、汚い・使いにくい等問題の多い災害時のトイレを良くするためには、建設現場でのトイレを良くしなければならぬことを述べ、日本の建設業界の担い手不足解消の手段としても仮設トイレを良くしていく動きがあることをご紹介し、弊社の最新のトイレを写真と共にご紹介しました。

## 日本の災害時に供給される仮設トイレとは？

- ・建設現場で使用されている物が主流
- ・和式(しゃがむタイプ)が主流
- ・少量の水がでるタイプが主流
- ・素材はポリエチレン製
- ・シングルタイプが主流

1

## ポリエチレン製仮設トイレ



## 仮設トイレ(パネル式)メリット/デメリット

- <メリット>
- ・丈夫で耐久性に優れている。
  - ・量産性に優れている。
  - ・安全性が高い。(防犯・風対策)
- <デメリット>
- ・夏場は室内が暑い。
  - ・備蓄性が優れていない。
  - ・輸送コストが高い。

3

## テント式仮設トイレ



## 仮設トイレ(テント式)メリット/デメリット

- <メリット>
- ・備蓄性に優れている。
  - ・パネル製よりは本体単価が安い。
- <デメリット>
- ・安全性に問題がある(防犯・風対策)
  - ・組立が困難なものも存在する。
  - ・耐久性が悪い。

5

## マンホールタイプ



## 多目的トイレ



## 仮設トイレの供給以外に必要な備えについて

- 輸送面
- 設置場所
- 関連商材
- メンテナンス/使用上の注意
- 夜間使用
- 使用後の処理

8

## 輸送に備える

- 日本では災害時、輸送コストと効率の面から仮設トイレを分解した状態で輸送し、現地で組立てを行います。
- 事前に出荷工場と打合せをし、積載手順についても取決めをしています。
- 通常は陸上輸送がメインですが、熊本地震の際は緊急を要した為、国内では初めての空輸を行いました。
- これらは行政と民間企業が一体とならなければ成功しません。

9



## 設置場所に備える

- 設置場所の設定をしておく
- 設置場所までの搬入路の確認
- 現地での指示者の選定

14

## 関連商材

- 清掃ブラシ、洗剤
- 消臭剤、防虫剤
- トイレtpーパー
- ゴミ箱
- 手洗い用消毒液
- ならし棒? 15

## メンテナンス/使用上の注意喚起

- ・清掃担当者の選定
- ・清掃方法の取決め
- ・清掃の周期の設定
- ・し尿汲取りの周期の設定
- ・ゴミの分離

16

## 夜間使用に備える

(例)

- ・個別の電池式照明器具の装着
- ・発電機の用意
- ・投光器の用意

17

## 使用後の処理に備える

- ・レンタルの場合は契約満了時に撤去
- ・販売の場合は中古買取しレンタル品として再利用や再利用できない場合は無償引取り部品取りとして使用

貴重な資源を無駄にせず、出来るだけゴミを出さない！

18

## 建設現場のトイレが変わる

- ・建設現場の担い手不足が深刻
- ・建設業界、建設現場のイメージアップが求められている
- ・建設現場の悪いイメージの一つが現場作業環境でありトイレの問題である

「現場の仮設トイレの改革がはじまりました！」

19



20



21

## トイレの大切さ

- ・トイレが良くなれば作業環境が改善され担い手不足の解消に繋がる。
- ・建設現場のトイレが変われば、イベントや災害時のトイレも変わる。
- ・災害時のトイレが変われば、健康被害も少なくなる

「仮設トイレが現場を変える」

「快適なトイレでみんな幸せ」

22

# 防災・災害用トイレの備蓄についてのアンケート調査について I

メーカー生産量は発表 第2回の調査ともに「備蓄している」が、15%~17%と非常に低率  
大規模地震が起きたら、メーカーの生産・発送は追いつかない !

トイレ文化研究会/防災・災害トイレ特別委員会

新妻 普宣

## 1. 目的

昨年4月、発生確率が「ほぼ0~6%」とされていた熊本において、大規模な地震が発生致しました。これまでも、政府では、今後30年間に大規模地震（首都直下地震・南海トラフ地震）が約70%の確率で発生すると想定しており、「災害用トイレ」についても、水や食料と同様、いやそれ以上に備えようという気運が高まっていた最中に、またまた大規模な地震が発生しました。

そのような中、一般社団法人日本トイレ協会内に新しく設置された「防災・災害用トイレ特別研究会」では、「災害用トイレ」について、喫緊の課題と捉え、まずは国民の備蓄実態を把握すべく、合計2回の「備蓄に関するアンケート調査」、及び「災害用トイレメーカー生産量の調査」を実施しました。

また、第1回目のアンケート調査に関して、多くのメディアにも取上げて頂きましたので、併せて以下に報告致します。

### 【防災・災害トイレ 特別研究会 メンバー】

高橋会長・木内・寅・金子・谷本・新妻 各協会運営委員

足立社長（(株)エクセルシア（法人会員）

※2017年2月現在 敬称略



特別研究会の様子

## 2. 災害用トイレ備蓄に関するアンケート調査結果

### (1) 第1回調査

調査時期：2016年10月

調査対象：日本全国 20代~80代の男性女性

調査方法：インターネットアンケート

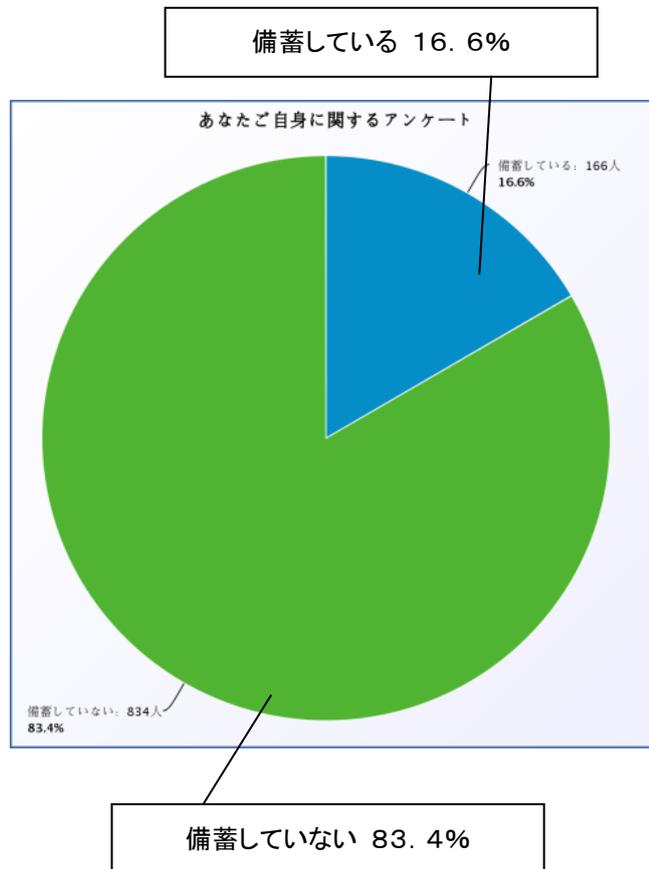
回答者数：1,000人

## 質問と結果

Q. あなたの家庭では、災害用トイレを備蓄していますか？

※ 災害用トイレとは、簡易トイレや携帯トイレなどのことを指します。

- A. 「備蓄している」           **16.6%**  
    「備蓄していない」       **83.4%**



## (2) 第2回調査

調査時期：2017年1月

調査対象：日本全国 10代～70代以上の男性女性

調査方法：インターネットアンケート

回答者数：300人

## 質問と結果

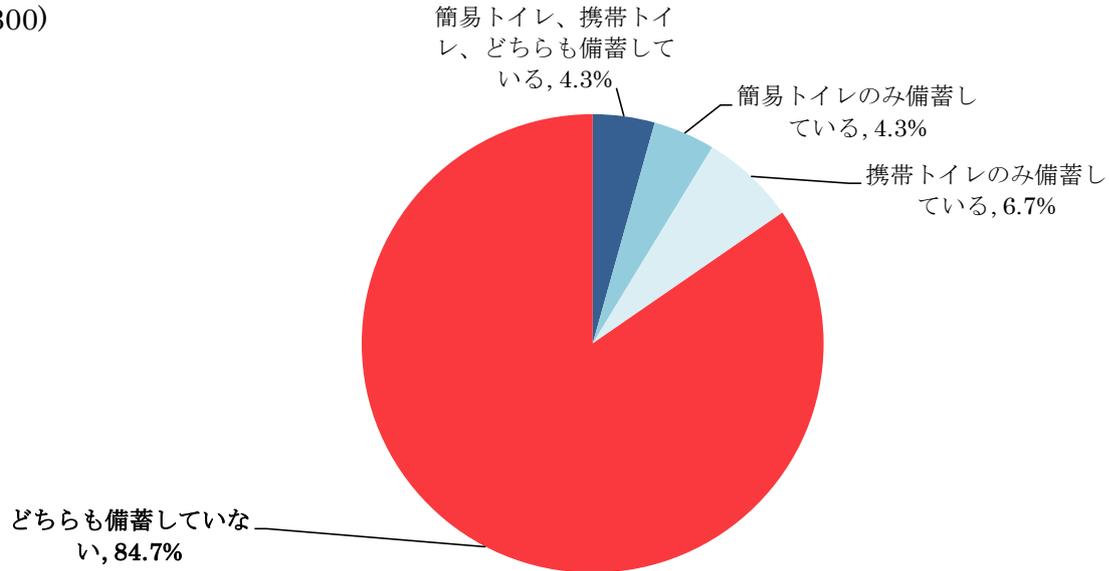
Q. あなたやあなたのご家庭では、災害時用トイレを備蓄していますか。

- A. 「備蓄している」           **15.3%**  
    「備蓄していない」       **84.7%**

【Q1】あなたやあなたのご家庭では、災害時用トイレを備蓄していますか。

(お答えは1つ)

(N=300)



### 3. 災害用トイレメーカー生産量

<非常時のため1袋(枚)を2回使用すると想定します。>

#### 【地震発生後3日間：携帯トイレメーカー】

日本トイレ協会会員メーカー 生産可能数量 約 56.7 万袋 (枚) (約 113.4 万回分)

所属以外のメーカー 生産可能数量 約 45.0 万袋 (枚) (約 90.0 万回分)

国内全体 生産可能数量 約 101.7 万袋 (枚) (約 203.4 万回分)・・・①

#### ※年間生産可能数

大手携帯トイレメーカー 最大約 1,200.0 万袋 (枚) (約 2,400.0 万回分)

#### 【地震発生後3日間：仮設トイレメーカー】

日本トイレ協会会員メーカー 生産可能数量 約 1,191 棟 (約 476.4 万回分)

所属以外のメーカー 生産可能数量 約 -----棟 (約-----万回分)

国内全体 生産可能数量 約 1,191 棟 (約 476.4 万回分)・・・②

#### 【地震発生後3日間：携帯&仮設トイレメーカー生産量】

携帯トイレメーカー国内全体 生産可能数量 約 101.7 万袋 (枚) (約 203.4 万回分)

仮設トイレメーカー国内全体 生産可能数量 約 1,191 棟 (約 476.4 万回分)

国内全体 生産可能数量 合計 ①+② 約 679.8 万回分・・・③

#### 【南海トラフ地震被害想定】

- 1、避難所避難者数 約 950 万人（公式数値）
- 2、上水道支障率（断水率） 約 28.6%（逆算にて算出）
- 3、1人あたりのトイレ使用回数 1日5回（公式数値）

#### 【一家族（4人）3日間の利用想定】

4人（1家族）×5回（1日トイレ使用回数）×3日分（備蓄）＝60回分（備蓄推奨数）

〔引用資料〕内閣府資料

「南海トラフ地震想定ポイント（P.7～8）」

「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画（P.38）」

#### 4. 当調査のマスメディアにおける取材状況

第1回目の調査に関する「ニュースリリース」を、マスメディアに多くのネットワークを持ち、当調査の企画及び広報担当でもある金子運営委員より、多くのマスメディアへ発信頂きました。

その結果、同委員の多大なるご尽力もあいまって、テレビ、ラジオ等の有名メディアからも取材を受けましたので、併せて以下に報告致します。

##### ① テレビ： NHKニュース 「おはよう日本」（全国放送）

取材・撮影 2016年11月17日（木）午前9～11時

放送 2016年12月3日（土）午前7時～



NHK取材当日の様子（左より NHK取材班（3名）、当協会 金子運営委員）

##### ② ラジオ： TOKYO FM 「防災フロントライン」

2月16日（木）電話取材、2月24日（金）21：55～放送



## 《取材内容 Q&A ※一部抜粋》

Q 1 「災害用トイレ備蓄に関するアンケート調査」についてどのような結果が出ましたか。

A 1 ・各家庭における 食料・水の備蓄率が、65.2%、49.5%（※1）となっている中、トイレの備蓄16.6%と非常に低い結果であり、有事の際、トイレに困る方が多数発生することが予想されます。

- ・食べ物・飲物は、イザとなれば何とか我慢できるが、トイレは1日も（数時間でも）我慢できません。
- ・トイレ環境が、不自由や衛生環境が悪くなると、健康被害（エコノミークラス症候群等）や、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ）等の2次災害発生の可能性が高まります。

Q 3 災害用トイレを備蓄する意義を教えてください。

A 3 前述理由から、想定される各大規模地震において、避難所や企業、家庭におけるトイレ環境が劣悪となる事が予想されるため、「災害用トイレ」を備蓄する事は、非常に意義のある事（必須事項）です。

Q 4 東日本大震災や熊本地震など、大地震の際、被災地でのトイレ事情はどのようなものでしたか。

A 4 阪神大震災（1995年）、新潟中越地震（2004年）、東日本大震災（2011年）、熊本地震（2016年）においても、ライフライン（上水道、下水道、電気）等の不全により、トイレ環境が劣悪なものとなりました。

発災当初は、「穴掘りトイレ」が発生する場所もあった。

その様な状況から、食べ物・飲物があっても、摂取を控える人が発生し、結果として、体調を壊す人が多く発生しました。



劣悪な環境となった避難所のテント式トイレ内部

Q 5 一般家庭で備蓄できる災害用トイレにはどんな種類がありますか。

A 5 主に、「携帯トイレ」と「簡易トイレ」の2種類があります。

Q 6 一般家庭では、どの程度、備蓄しておけばいいですか。

A 6 国の「防災基本計画」では、「最低3日間、推奨1週間」とされています。「携帯トイレ」の場合（4人家族の数量目安）  
@5回×4人×3~7日間 = 60~140回分（枚）となります。

### ③ その他 ご紹介頂いたWEBサイト

- ・「マイナビ」（毎日新聞 WEB版 2016年11月17日付）
- ・「TEAM防災ジャパン」（内閣府 防災担当 運営WEBサイト 2016年11月18日付）
- ・「リスク対策.com」（2016年11月24日付）
- ・WEBコラム（長澤まき氏 2016年12月5日付）

## 5. 防災・災害トイレ特別研究会の見解 【考察】

今回実施した「災害用トイレ備蓄に関するアンケート調査」（計2回）及び「災害トイレメーカー生産量調査」について、「防災・災害トイレ特別研究会の見解」を3点、以下に考察として提示します。

### （1）「災害用トイレ」の備蓄率が非常に低い。

今回、協会が実施した2回の調査において、いずれも「災害用トイレを備蓄している」が、16.6%（第1回）、15.3%（第2回）と、非常に低率となり、過去に実施された東京都の調査値6.3%（2011年）、17.6%（2014年）と比較しても、殆ど増加しておらず全国的に備蓄がなされていない事が判りました。

しかしながら、過去に東京都が実施した調査は、「東京都エリアのみの対象」である。一方で、今回当研究会が実施した調査対象は「全国エリア対象」の為、備蓄意識が低いエリアも含まれた調査であり、同調査を東京都エリアのみで行った場合、今回の結果以上に高い数値が表れていた事も考えられます。

よって、単純に東京都の調査値と比較せず、今回協会が実施したアンケート調査を「基準値」として今後「定点調査」（年1回程度）を実施する事により、「新たな備蓄率の増減」を見て行く事が重要と考えられます。

「災害用トイレ・食料・飲料水の備蓄率 変遷」

年度	災害用トイレの備蓄率	食糧・飲料水	調査実施者
2011年	6.3%	55.9%・-----	東京都
2014年	17.6%	49.5%・65.2%	東京都
2016年 10月	16.6%	-----	(一社)日本トイレ協会 第1回WEB全国調査
2017年 1月	15.3%	-----	(一社)日本トイレ協会 第2回WEB全国調査

出典: 東京都の数値は、東京都ホームページより

## (2) 南海トラフ地震・首都直下地震 における「政府 被害想定」及び「トイレ不足数」

政府が昨年及び一昨年発表した各大規模地震発生時の「トイレ不足」は、それぞれ約 5,442 万回、約 3,150 万回と膨大な不足数となっています。

一方で、政府は災害が起きた際、4日目から7日目までの4日分の災害用トイレや食・飲料、日用必需品を被災地に届けるプッシュ型支援を行う事になってはいますが、初動から最低限3日分、推奨7日分は、自助・共助で備蓄をお願いしています。

現状として、初動の3日間や7日目以降、一人平均1日5回のトイレが適切な処理をされないと、衛生面からの感染症、さらにトイレに行かなくなると健康被害(エコノミークラス症候群など)に罹る人が多数発生する可能性がある為、「災害用トイレ」の備蓄を行う事は非常に重要な要素となっています。

### ① 各地震における「被害想定」

地震名	南海トラフ地震	首都直下地震
各想定数		
地震発生確率	30年以内に約70%	30年以内に約83%
避難想定人数	最大 約950万人	約720万人
帰宅困難者	約380万人	約800万人
上水道 断水 復旧日数	約3,440万人 約60日	約1,440万人(約30%) 約30日
下水道 断水率 復旧日数	約3,210万人 -----	最大150万人 30日以上
電気 被害想定 復旧日数	約2,710万軒 -----	1,220万軒(約50%) 約30日

出典: 内閣府 中央防災会議、文部科学省 地震調査会より

## ② 各地震における「トイレ不足数」(発災後 1 週間)

地震名	南海トラフ地震	首都直下地震	備考
トイレ不足数			
A 1～3 日目分	約 4,081 万回	約 2,362 万回	政府想定数を基に研究会にて算出 B÷4日×3日
B 4～7 日目分	約 5,442 万回	約 3,150 万回	政府想定数
合計 C 1～7 日目分	約 9,523 万回	約 5,512 万回	A+B

※政府が発表したトイレ不足数値へ、研究会の算出数値を加筆

### (3) 災害トイレメーカーの生産量 ※詳細前述「3」

地震発生後、日本中の災害用トイレメーカーが一斉に生産しても、地震発生3日後に僅か「約679.8万回分」しか生産できないことも分かりました。

また、過去の地震経験からみても、地震により工場等が被災して、たった一つの部品供給がストップしただけで、商品の製造もストップするという事例が発生しました。皆さんの記憶にも残っていらっしゃると思いますが、東日本大震災において、一時、日本中からペットボトルの水が消えた(欠品した)のも、たった一つの「キャップ」(部品)の供給がストップしただけで、商品の製造がストップした事例です。

「災害用トイレ」の製造についても同様に、商品の製造がストップする事が考えられる為、地震発生前に「災害用トイレ」の事前備蓄をお願いしています。

## 6. おわりに

今回2回に亘り実施した「災害用トイレ備蓄アンケート」及び「メーカー生産量」調査を通じて判った事は、「災害用トイレ」について国民の自助による備蓄は、喫緊の課題となっていることです。

当研究会では、今後も「災害用トイレ」の「各種課題研究」や「備蓄率の向上の普及啓蒙活動」等を継続して参りたいと存じますので、引き続き皆様のご指導ご協力をお願い申し上げます。

また、この場をお借りして、当アンケート調査、マスコミ等への広報等に多大なるご協力・ご尽力を頂いております 佐竹事務局長、金子委員、木内委員、寅委員、谷本委員、(株)エクセルシア(足立社長)へ御礼を申し上げます。

～ 備えあれば憂いなし! ～



# 「防災・災害用トイレの備蓄についてのアンケート調査について II

トイレ文化研究会／防災・災害トイレ 特別委員会

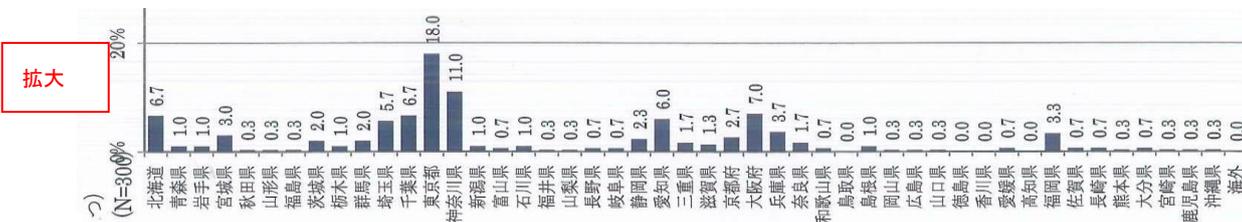
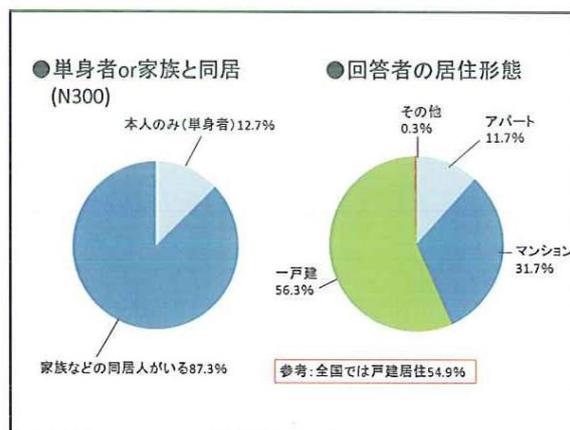
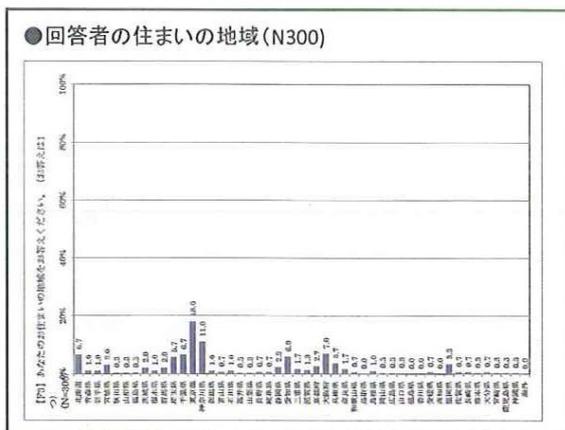
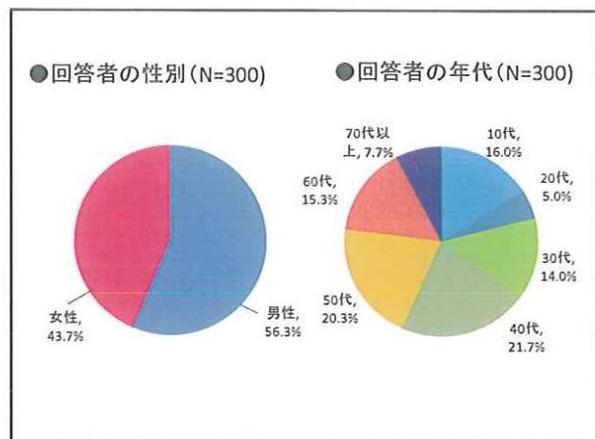
高橋志保彦

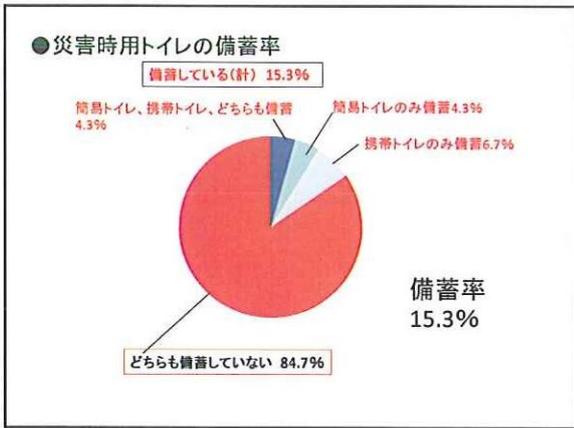
日本トイレ協会のトイレ文化研究会／防災・災害用トイレ特別研究会では、昨年「今後 30 年間に南海トラフ地震と首都直下地震が 70%の確率で発生する」という深刻な予測に対し、防災・災害用トイレの備蓄必要量とメーカーの生産量との関連等を調査研究してきました。そして、これまで誰も調査していなかった国民の備蓄の実態はどうなっているのかを知るために、運営委員会の承認を得てアンケートによる実態調査を実施いたしました。

昨 2016 年秋に設問を作成して調査会社に発注し、設問内容を照査・修正した上で本年 1 月に調査を実施しました。その報告をパワーポイントでまとめましたので以下に掲載し、報告いたします。

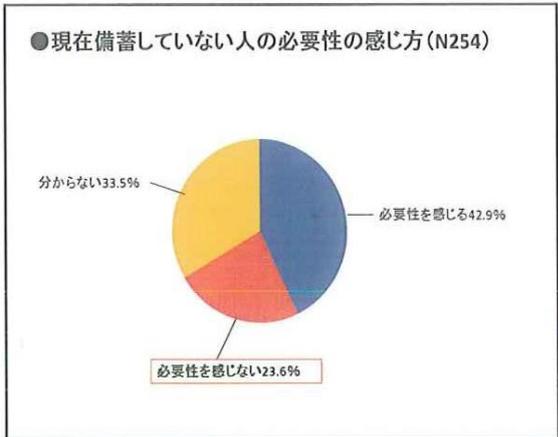
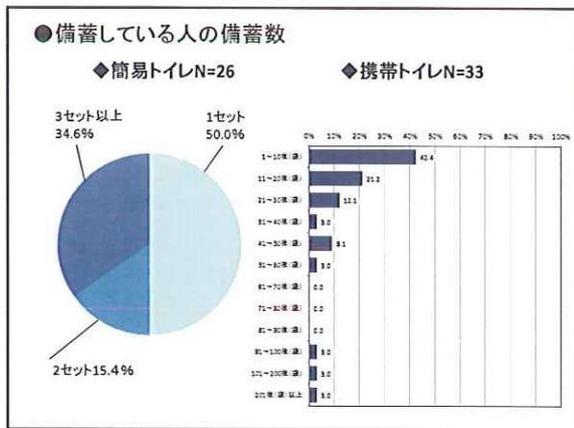
災害時用トイレの備蓄についてのアンケート調査

一般社団法人日本トイレ協会  
 設問作成：日本トイレ協会トイレ文化研究会／防災・災害用トイレ特別研究会  
 調査期間：2017年1月25日～31日  
 調査機関：㈱ネオマーケティング

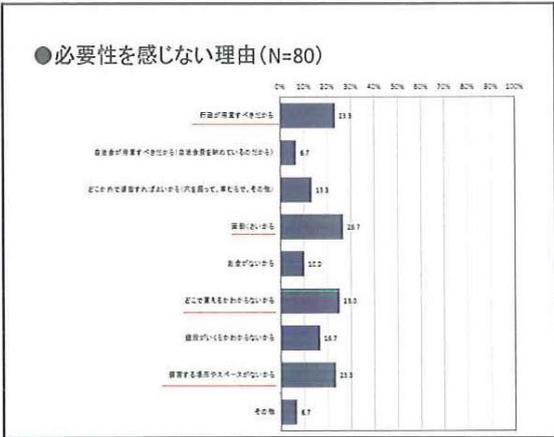




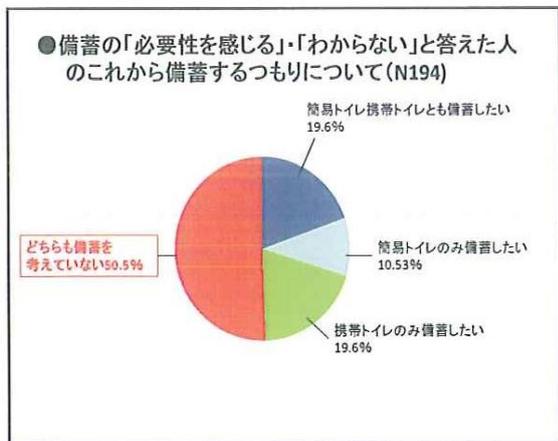
備蓄している人たった 15.3%



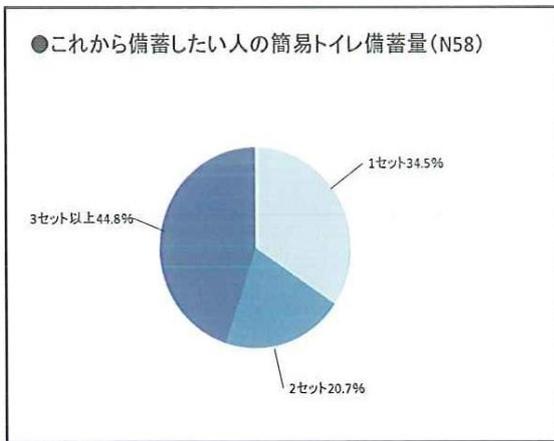
必要性を感じない人が23.6%もいます！  
分からないと答えた人も33.5%も

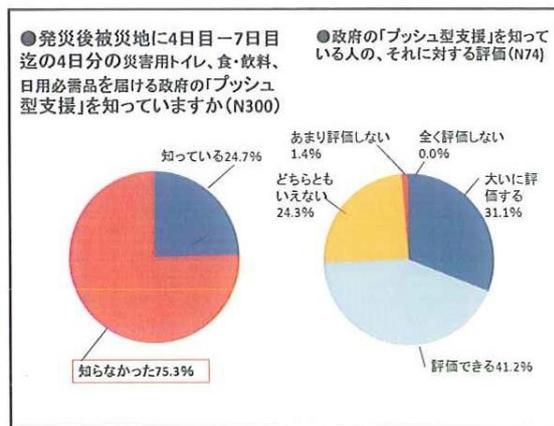
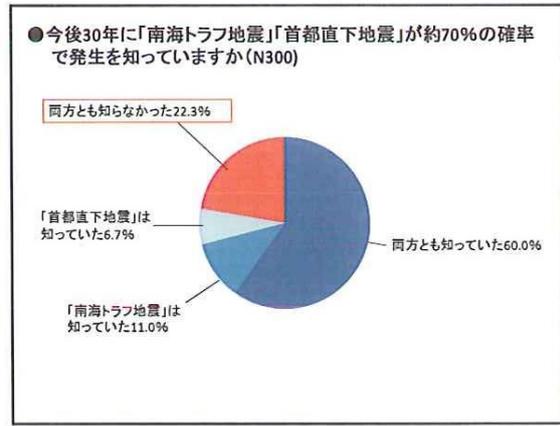
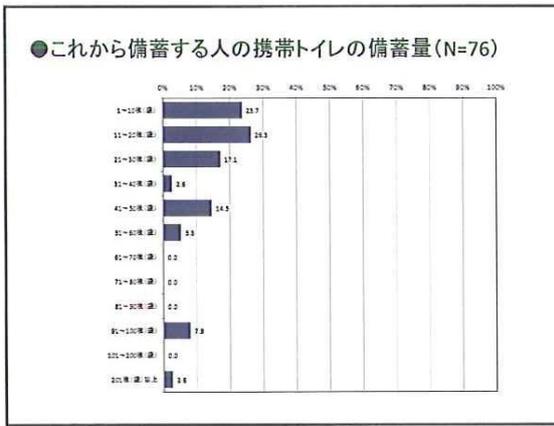


関心の薄い人の気持ちがよく出ています

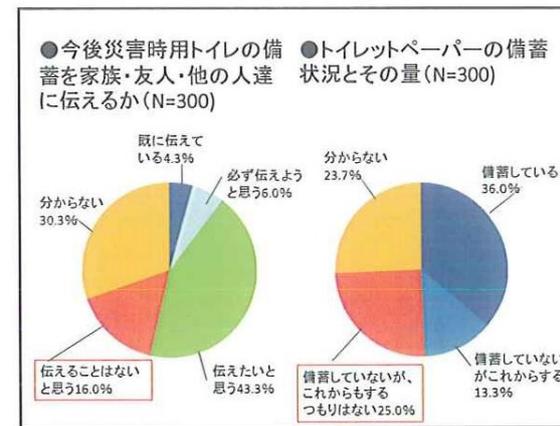


これからも備蓄しない人 50.5%





プッシュ型支援を知らなかった人75.3%



今後、トイレ文化研究会／防災・災害用トイレ特別研究会において調査結果のデータを詳細に検討した上で、当協会として次に挙げた活動を行っていく予定です。

1. 備蓄の必要性のPR活動
  - ・メディアを通じる（テレビ、ラジオ、新聞、業界紙等）
  - ・会員を通じて（総会、シンポジウム等で）
2. 行政への働きかけ（自助・共助・公助）
  - ・経済産業省・・・担当者への報告と今後への対応
  - ・文部科学省・・・学校教育において
  - ・地方公共団体（自治体）・・・意識発揚と自治会にPR
3. 冊子の制作
  - ・A4版4ページでまとめる（2017年シンポジウムまでに作成）
4. 海外への発信の仕方
5. 災害用トイレメーカーとの連携（可能性拡大の追求）
6. 今後の継続的調査の必要性とその可能性の組み立て

（<一社>日本トイレ協会会長）

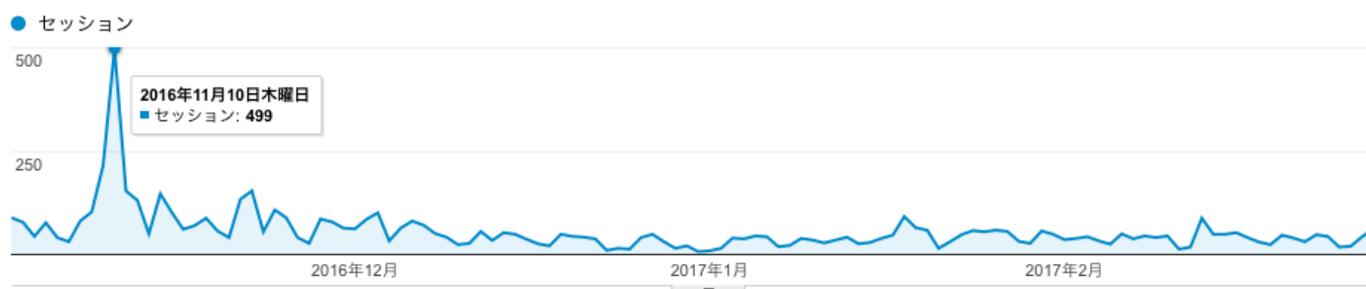
## 一般社団法人 日本トイレ協会 ホームページの刷新

運営委員 金子 健二

こんにちは、運営委員の金子健二です。昨年10月頃にもホームページのリニューアルを発信しましたが、今回は別の切り口での解説をさせていただきます。

### 【ホームページのアクセス数】

まずは下記の画像をご覧ください。



これは日本トイレ協会のホームページのアクセス数の推移を表示したものです。お気づきの方、いらっしゃると思いますが、一番高い数値を示しているのが、「11月10日(いいトイレの日)」です。11月は何かと、トイレに関する「新聞」「TV」「インターネットニュース」などが増えるため、月平均の3倍のアクセスが来ております。

ホームページのトップページは、トイレに関心のある人たちが日々、PC・スマートフォンから訪れております。特にトイレギャラリーは多くの方が閲覧しているので、商品・サービスを宣伝するには絶好の場所です！個人・法人会員のみなさまの特典として、5月まで無料で、投稿制限は設けておりません。これ機会に掲載してみるのはいかがでしょうか？

### 〔掲載内容〕

- 1、ジャンル：(ネタ or 告知 or 研究発表 or 新商品発表)
- 2、タイトル：(30文字まで)
- 3、会員種別：(個人会員 or 法人会員)
- 4、掲載名：
- 5、画像：(1枚 5MBまで) or 動画(10分以内 100MBまで)
- 6、説明：(100文字まで)
- 7、URL：

\*著作権が発生する「新聞記事」「映像」「商品」はNGです。

\*画像・動画の送り先はこちら「[jta-contact@toilet-kyoukai.jp](mailto:jta-contact@toilet-kyoukai.jp)」



### 【掲載事例】

- 1、ジャンル：新商品発表
- 2、タイトル：トイレ学大辞典
- 3、会員種別：法人会員
- 4、掲載名：一般社団法人日本トイレ協会
- 5、画像：
- 6、説明：トイレ学大辞典、Amazonで絶賛販売中！
- 7、URL：<http://goo.gl/yirMxG>

### 【ホームページのサービスを活用した連動企画】

以前、ホームページリニューアルで紹介した。

「マスメディア 200 名へ情報配信サービス（有料サービス）」

---

ホームページのトップページとプレスセンターページに「報道関係者向けニュースリリース」というコーナーを設けました。これは今まで協会が取材を受けたメディア関係者に加えて、トイレに関心があるマスメディア関係者の連絡先をリスト化していく新しい試みです。リスト化していくことでできることは、トイレギャラリー・スライドショーのように、ホームページに辿り着いたターゲット層ではなく、ピンポイントにトイレに関心のある「新聞記者・TVディレクター・TV制作会社など約 200 名」に直接メールをお届けすることができます。

有料サービス（料金はお問い合わせください。）ですが、活動や新商品などを取材してもらい、よりPRしたい方にはオススメです。

マスメディア向けの文章作成から、行いますので、興味のある方は事務局まで。

---

このサービスを活用した事例が出来ましたので、ご覧ください。

日本トイレ協会内に新たに 7 社（7 人）で設立された「防災・災害トイレ特別研究会」では、災害用トイレ備蓄啓発を目的に、「マスメディア 200 名へ情報配信サービス」を活用して、PRを行いました。

- 1、トイレギャラリーに「各社の防災・災害用トイレ 商品・サービス」を掲載
  - 2、11月上旬に【マスメディア向け文章】を作成
  - 3、11月15日に、200名以上のマスメディア関係者へメッセージを送信
  - 4、TV・ラジオ・ネットニュースなど4つのメディアから取材が入り、各メディアで紹介
  - 5、各メディアで紹介される度、ホームページ（トイレギャラリー）のアクセスが増加
- 

報道関係者各位・ニュースリリース

2016 年 11 月 15 日

一般社団法人日本トイレ協会

---

日本トイレ協会、災害用トイレ備蓄に関するアンケート調査&生産率を発表

『災害用トイレ、6家族に1家族しか備蓄していない』

「大規模地震が起きたら、メーカーの生産・発送は追いつかない」

～11月19日(備蓄の日)に、“災害用トイレ3日分備蓄”を～

---

一般社団法人日本トイレ協会(所在地:東京都文京区、会長 高橋志保彦、  
以下 日本トイレ協会) 防災・災害トイレ特別研究会は、11月19日  
(備蓄の日)前に、災害用トイレ備蓄に関するアンケート調査及び、  
災害用トイレメーカーの生産率を発表しました。

---

このようにホームページとマスメディア向けの情報発信を連動させ、商品・サービスをPRすることもできます。こちら個人・法人会員のみなさまの特典として、用意しておりますので、ご活用ください。

(NPO法人 Check 代表理事)

### 新妻運営委員が浄土宗大本山増上寺で防災トイレの講演 !

去る2月21日(火)15時より、浄土宗東京教区主催の講習会に招聘され、港区芝に所在する大本山増上寺において「都市災害時におけるトイレ問題と対策」のテーマでパワーポイントを駆使して日頃研究の成果を披露されました。参加者は約110名で教区内の教師、寺族の方々でした。

災害時の駆け込み場所の一つである寺院のトイレ対策を考えるにあたって本当に参考になったとの声が圧倒的でした。新妻委員は2014年以降、浄土宗豊島組、城西組、浅草組でも講演の実績があり、いずれも好評で災害時のトイレ対策の輪が広がりつつあり、(一社)日本トイレ協会の存在感が宗教界にも及んでいるものと思われます。

また同じテーマで東京都町田市や愛知県尾張旭市などでも講演され、(一社)日本トイレ協会をアピールされています。

## 『トイレ探検隊がゆく！』を終えて

隊長 坂上 遼



を指し示して下さいました。

すでにトイレ協会の三十周年記念講演でもお話したように、和式偏重の公衆トイレを改革しなくては、いや改革では生ぬるい、トイレ革命を起こさなくてはと自分の苦い体験から週刊文春でキャンペーンを展開したのです。

この3月に、毎月1回24回連載分の全てを掲載した電子版『トイレ探検隊がゆく！』を発売しました。なぜ電子版かと云いますと週刊誌は基本写真がモノクロですから分かりづらいとの指摘を戴いたことでした。今度は全編カラー写真ですから明快です。

もう一つは、私自身老眼が一気に進んだことです。電子書籍だと文字を大きく、明確に読み取ることが出来ます。しかも私のような電子音痴でも使えるのなら、これからの読書はこれだと考えたのです。

さて2年間を振り返ってみますと、一番印象に残っているのは、東西南北縦横断トイレ探検でした。北はお尻に関係があると屁理屈をこねて、利尻島に上陸。礼文島では北限の公衆トイレをウォッチし、次に最北端の宗谷岬のトイレを目指しました。「北限」と「最北端」の名称は、双方とも観光PRで争わない配慮のようで、もちろん宗谷岬の方が北です。続いて本土最東端の根室の納沙布岬。その足で沖縄の最西端・与那国島、最南端の波照間島まで公衆トイレ一つを求めて、出かけてきました。途中台風と鉢合わせし、石垣島で3日間足止めを食らうおまけ付きでした。さすが文藝春秋の太っ腹。

昨年5月に訪れた四国88カ所のお遍路トイレ旅も強烈でした。すでに浄化槽が来ている地域にもかかわらず、ウンとのスンとも反応せず、改善しようとしなないお寺の数々、しかもまだまだ和式偏重でした。世界遺産に登録されるためには、もうひと糞ばり、いえいえひと踏んばりしなくてと感じました。何と言っても、弘法大師は長安から水洗トイレの工法を持ち帰り、実際に高野山では、つい先頃までその方式を使用していたと聞いてびっくりしました。

今回皆様の仲間に入れて戴こうと考えたのは、「トイレ革命は永続革命である」と連載を通して確信したからです。どうか、今後ともよろしく願い申し上げます。



## 北陸より、トイレへの愛をこめて・・・

白百合女子大学児童文化研究センター 研究員

寺田 綾

初めまして。この度、個人会員として日本トイレ協会に参加させていただくことになりました、寺田綾と申します。

群馬県高崎市出身ですが、夫の転勤で大阪・東京と異動し2011年から石川県小松市に住んでおります。5歳の一人娘がおります。普段は、考古学趣味が高じて発掘現場で土層断面図をひいたり、遺物の取り上げ作業や整理作業をしたり…という調査補助の仕事をしています。(もちろんトイレ考古学にもとても興味があります！)

実は私、日本トイレ協会に長い間憧れを抱いていましたが、まさか自分がメンバーになる日が来るとは全く思っていませんでした。2015年10月に出版された『トイレ学大事典』を、図書館司書として勤務する友人から「あなたにピッタリの事典が柏書房から出たよ！」と連絡をもらい、へソクリで迷わず購入した時は、「さすが日本トイレ協会だ…ついに素晴らしい事典を出版してくれた…」と一人感動しながら、子どもが寝た後に頁を繰るのを息抜きとする日々を送っておりました。それから1年あまり…北陸のはずれに住む平凡な主婦に過ぎない私が、このような素晴らしいご縁をいただくこととなり本当に嬉しく思います。お声がけくださった村上八千世さんには心から感謝申し上げます。

入会に当たり自己紹介がてら、これまで個人的に進めて参りました研究及び活動を簡単に紹介させていただきます。

トイレ好きは4歳頃から始まりかれこれ30年以上が経過しております。古今東西、生きとし生けるものすべてに関係する「排泄」への興味は尽きることがありません。



### 【「樋洗童」(ひすましわらわ)の研究】

大学では日本古代史を専攻し、主に日本書紀の講読、天皇制の成立などについて学びました。その後、大学院からは児童文学・子ども学に転向し、歴史学の手法で子どもとは何かという問題に取り組んでおります。古代政治史も子ども学も、排泄とは一見つながらない専攻ですが、私のテーマの中心は「樋洗童」という、平安時代の貴族のおまるの中の排泄物を片付けていた「子ども」たちなのです。ちなみに、樋洗童という存在、中学生の時に古典の本を読んでいて偶然見つけました。そんな不思議な職業があったことを母親に興奮気味に伝えて十年余り…歴史学と子ども学の融合を思うようにできず、論文のテーマ設定に苦しんでいた私に、「おまるの片づけをしていた子どもがいたじゃない！」

と放ってくれたのが母でした。中学生の私のアウトプットが、時を経て返ってきた瞬間でした。

さて、その樋洗童、現代を生きる我々の感覚ですと「子どもに汚物の片づけをさせるなんてとんでもない！」と否定的なイメージを持ってしまいます。しかし、時代を遡ると、汚いということに対する感覚自体が我々とはかけ離れています。この「感覚の違い」というのは「心性」という言葉に置き換えることができますが、「排泄に対する心性」と「子どもに対する価値観」に絶妙な共通点があるのではないかと考えております。一般的な辞書類では、「樋洗童＝下級の召使い」というような表現がなされることが多いのですが、実際資料を当たってみますと(日記や文学作品上の表現を分析)貴族の日常生活においてかなり重要な役割を担っ

ており必ずしも下級とは言い切れない様々な姿が浮かびあがってきます。また、明確に便所というものが存在していない時代においてはそれだけ排泄物もニオイも身近であったと考えられます。排泄が、大らかに受け止められていたところから、徐々に排泄を嫌悪し生活から少しでも切り離そうとするメンタリティが生まれていきます。排泄物を忌み嫌う心性がどのように始まり、どのように社会に広まっていったのか、ということも「穢れ観念の肥大化」というテーマで同時に扱いながら、日本人の排泄イメージ（排泄観）の変遷を辿っています。このように、日本人の排泄の歴史を考えることは、同時に、日本人が「子どもをどのように見てきたか」という問題にも奥深いところで繋がっていくと考えます。

また、古代の子どもと排泄物というテーマで興味深いものに「排泄物の名前をつける」ということが挙げられます。土佐日記の作者として有名な紀貫之の幼名は「阿古久曾（あこくそ）」です。（今の感覚でいうと「ウンコくん」というところでしょうか…）冗談でもなんでもなく大真面目に「ウンコ」という名前がつけられていました。古代の日本には子どもと排泄物には密接に関連したイメージがあることは間違いないと思います。もちろん、このような価値観には当時の東アジア世界の影響があることが考えられるため、東アジア諸国の排泄観、子ども観との比較も不可欠です。まだまだ探るべきことはたくさんあります。

### 【トイレのことを明るく話すために】

私は小松市にある「ややのいえ」というコミュニティスペースのお手伝いに、ママさんボランティア（略称・ママボラ）として携わっています。ややのいえ代表の榊原千秋さんとひよんなことから知り合い「子どもとウンチのイベント」（「レッツうんこコミュニケーション」2016年11月3日、サイエンスヒルズこまつ）を企画させていただくことになり、そのイベントのメイン講演会に村上さんが来てくださったご縁でこの度日本トイレ協会に入会させていただくことになったのです。ややのいえには「おまかせうんちッチ」という排泄にまつわる総合窓口があります。介護や育児はもちろん、排泄に関係するどんな悩みでもドンと来い！の頼もしい機関です。排泄を大切に



する人は、命を大切にします。出会いを大切に、お互いの命を尊重し、今を生きていることを喜び合いながら人とまた繋がっていく…そんな不思議な空間が「ややのいえ」です。私は、僭越ながらややのいえの「トイレ博士」として、トイレの歴史や文化を面白く伝えていく活動やうんこ図書館の設立に向けた準備などを進めているところです。「ハイセツチャーズ」というユニットも結成、子どもや小さい子を持つ親のためのトイレのブックリストを作ったりする活動もしています。

### 【体の排泄・心の排泄】

排泄と一言で言っても、それが必ずしもウンチやオシッコを表すとは限りません。健康な排泄が必要なのは肉体ばかりではありません。心の排泄もとても重要です。近頃、心のモヤモヤをどうしたらよいかわからない人、そもそもモヤモヤしていることに無自覚な人…がたくさんいるように感じられます。緊張が溢れ、体も心も強張っている人が多いように感じます。もちろん私もそんな一人だなあと強く思っています。私は実家から離れた地域での子育てを通じて、たくさんの不安と緊張を味わい、また同時に、そのようなストレスを小出しにすることの大切さ、人に弱みを見せることの重要性を学びました。弱さを受け止めてくれる人たちがいてくれることはどんなにありがたかったかわかりません。その経験を生かして…なんて言い方は恐れ多いですが、私が育児で感じたことの中から何かのお役に立てればと思い、現在は幼稚園や保育園の子育

て支援の場などで「ママのココロとカラダの排泄セミナー」などを行っています。心身の排泄を考えることで、緊張を解きほぐし、心身両面でのよい排泄を促すきっかけになれば嬉しいなあと思っています。



#### 【母になるとは「ひすまし」と見つけたり】

何を隠そう、若い頃、私は子どもが苦手でした。子ども学を専攻したのも、子どもという存在が怖くて苦手で仕方がないからいっそのこと研究しようと思い門を叩いたのです。そんな私も時を経て、縁あって母親になることができました。我が子を胸に抱いた日から開始する、子どものオムツを替え続ける日々は、まさに「ひすまし」。「排泄物を片付ける子ども」について考えていた私が、今や「子どもの排泄物を片付けている」…妙な気分でした。そして、その排泄物と来る日も来る日も向き合う時間は、なんとも不思議な親密性の構築の作業でした。ウンチやオシッコを毎回見つめていると、だんだんとその持ち主（出し主？）のことがわかってきます。相手の体のことがわかってくると、心もわかってくるような気がします。そもそも、言葉も通じ合わない赤ちゃん相手ですが、排泄物を介してその替える人・替えられる人というその一瞬を共有していくと言葉を交わしているような気がします。いいウンチが出たね、よかったね…と話しかけるとスッキリご機嫌な表情を返してくれる…。排泄物を通じて、なんだか他人ではない気持ちになってきます（親子なんだから当たり前でしょうが！という突っ込みが聞こえてきそうですね…でも、親子でも他人は他人です。別の人、別の個体であることに変わりなし）。私は、娘の排泄物を見つめる日々があったからこそ、本当の意味で彼女と親子になれたような気がしています。「子どもとは何か」とか、「親子とは何か」とか…あれこれ何でも面倒くさい方向に考えてしまう私にとっては、とても大事な「ひすまし」の日々でした。このことは、何も親子に限らず、もしかしたら介護の現場、保育の現場でも同じなのではないでしょうか？排泄をポジティブに受け止める・受け止めてもらうことで人は親密性を獲得し、より優しくて奥深い人と人との繋がりになるのではないのでしょうか？何も直接、排泄物を介さなくたって、「この人も排泄をする人、生きていく人なのだ…」と思うことによってお互いの生命を讃え、労う気持ちを持つことはお互いを尊重することの基本になるのではないのでしょうか？排泄をキーワードにしながら、世の中はもっと優しくなっていけるとと思っています。

以上、私のことを思うままにお話しさせていただきました、トイレのこと、排泄のこと、たくさんの想いがあってあれこれ話が飛んでうまくまとめることができず申し訳ありません。これから、協会の会員としての自覚を持って、よりよいトイレワールドの構築と発展を目指して邁進していく所存です。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

#### 【参考までに…】

- ・寺田綾『日本古代の排泄観念と桶洗童に関する一考察』  
(白百合女子大学児童文化研究センター研究論文集 14、2011年3月)
- ・コミュニティスペースややのいえ (榎原千秋代表)  
<http://inochi-network.seesaa.net/>

## トイレ掃除の現場から

～外国人観光客急増中の浅草・その公衆トイレの現状と改善の取組み～

株式会社シミズオクト ファシリティマネジメント部

吉田 涼子



【裏方ひとすじ】を創業以来のモットーとしている(株)シミズオクトで施設管理の業務に携わり、大きな施設や野外イベント等様々な経験をしてきましたが、今担当している台東区浅草にある浅草寺のトイレは、想像を超える“すごいトイレ”です。

浅草寺の歴史は、628年3月18日がはじまり。檜前浜成・竹成の漁師兄弟が隅田川で漁猟中に観音様の御尊像を感得し、土師中知が聖観世音菩薩様に皈依、645年勝海上人が観音堂を建立しました。江戸時代には徳川家康公により幕府祈願所として定められ、塔堂の威容を整い江戸文化の中心として大きく繁栄してきたそうです。

そのはじまりから約1400年の時を経て、今も多くの観光客で賑わう浅草界隈、その中で代表的な場所といえば浅草寺です。この浅草寺に訪れる参詣者は年間で約3000万人。周辺の駅、道、参道、境内はいつも人で賑わっています。羽子板市では約55万人、お正月三が日では約300万人の参詣者が訪れるのです。

境内には2つのトイレがあります。1つは南側トイレ。雷門からまっすぐ本堂に進むと宝蔵門という門があり、その門から見て右手にあるトイレです。もう1つは北側トイレといって、さらに本堂脇を進むと左手にあるトイレです。

便器の数から想像してみてください。

### ① 南側トイレ

男性用：小便器12器、大便器8器、多目的トイレ1ヶ所、洗面台7器

女性用：大便器27器、多目的トイレ1ヶ所、洗面台10器

### ② 北側トイレ

男性用：小便器6器、大便器3器、多目的トイレ1ヶ所、洗面台3器

女性用：大便器3器、多目的トイレ1ヶ所、洗面台3器

このような場所でのトイレ清掃。様々な環境で清掃を経験してきたとはいえ、今までの私の中の常識がことごとく崩れた苦労話を少しお伝えします。

## ■清掃方法

今まで利用者が居ない環境での清掃しかしていなかったのが、絶えず利用者が居る環境でそれを当てはめるとクレームの嵐でした。「早くしろよ」「掃除なんかしなくていいよ」等々、使った方が勝ち！という状況で清掃が全く進まず、疲労困憊するだけでしたが、区分け清掃をすることで解消しました。いつでも利用者が使えるトイレを確保しながら清掃しています。優先事項を間違えると清掃が終わらないので、従業員で作業の流れを統一させています。

## ■小便器清掃

1 番苦勞し、1 番勉強になったものです。小便器汚れの代表は尿石ですが、このトイレは尿石に加えソフトスケールが大量に発生します。はじめは水が溢れている便器を 2 器発見したことから。まずは、ラバーカップで刺激してみようと試みました。でも解消できず、液体固体の尿石除去剤を投入しても、溢れる便器が増えるだけでどうにもできず、困り果て、壁の中にある配管を確認してみようと、キャップを開けた瞬間、言葉を失うほど驚きました。尿石とソフトスケールで配管が埋め尽くされていたのです。「こんなの見たことない、そりゃ詰まるわ・・・」呆然としながらも、「これを取るしかない！」と気合を入れて塞いでいたものを取り除きました。一時的に開通したものの、本当の戦いはそこからでした。どうしたら配管を塞がないメンテナンスができるのか、今でもその疑問を解決する為、試行錯誤しています。

## ■大便器清掃

大便器のある個室では、様々なトラブルがあります。まず異物混入の詰まりです。今まで詰まっていた物は、新聞紙・携帯電話・電卓・カイロ・生理用品・クッション材・カード・スプーン等。そして散乱している物は、便（棚に置かれるものも有り）・野菜・衣類・梅酒・入歯等。どうしてこの状況になったのか、つい考えてしまいます。そういったものが散乱していると悪臭が発生しているので、すぐに清掃を行い早期に使えるトイレにしています。

他にも、洗面台清掃、ジェットタオルの清掃、グレーチング清掃、ブース清掃、屋外にある小便器清掃等、トイレ＝便器ではなくトイレという空間のメンテナンスを行い、1 人でも多くの利用者の方に綺麗だと思ってもらえる様、清掃をしています。

清掃をはじめた頃は、便器のメンテナンスを中心に考えていましたが、空間が綺麗でないと便器だけが光っていても仕方がないと思うようになりました。というのも綺麗か綺麗でないか、人はまず、その空間に入った時に感じるものです。要は、“トイレ環境の改善”に視点を持ち、浅草寺様が和式便器を洋式便器に交換し、ブースを交換し、弊社でアロマを導入しました。

アロマは天然素材で消臭・防虫・リラクゼーションを期待でき、心地良いトイレの空間を演出できます。「いい匂い」というお声を聞くと 1 ランクアップした気分になり大変嬉しくなります。

“施無畏（せむい）”を象徴する観音霊場である浅草寺で、色々なものを受け止めてくれる便器に愛情を持ちながら、日々精進していこうと思います。



## 運営委員会経過（2017年2月～3月）

### ■ 第6回運営委員会

- 1 日時 2月6日（月）17時30分～19時40分
- 2 会場 (株)レンタルのニッケン 6F役員会議室
- 3 議題 (1) グッドトイレ運動推進運動について (2) 国際交流（台湾での講演と視察）  
(3) 災害時トイレのアンケートについて (4) TOTOミュージアム（北九州市）の視察  
(5) 2017年度総会について (6) 第33回全国トイレシンポジウム

### ■ 第7回運営委員会

- 1 日時 3月6日（月）17時30分～19時40分
- 2 会場 (株)レンタルのニッケン 6F役員会議室
- 3 議題 (1) 2017年度総会について (2) グッドトイレ推進運動進捗状況について  
(3) 第33回全国トイレシンポジウムについて

### 2017年度一般社団法人日本トイレ協会 定例総会のご案内

開催日時 平成29年5月20日（土）13時30分開会 14時40分頃 講演 17時 交流会  
会場 (株)レンタルのニッケン BF大会議室<東京都千代田区永田町2-14-2 山王グランドビル>  
講師 上野 義雪氏(当協会 運営委員 前千葉工業大学教授)

詳細は5月発送の「総会のご案内」及び「総会資料」にてお知らせいたします。

### 編集後記

最近、あちこちで「日本のトイレって、世界一なんですよ？」と聞かれます。外国人観光客が急増し、2020年開催の東京オリンピックの話題が増え、「海外から見た日本」や「世界に誇れる日本の技術」の報道が増えたせいでしょう。「じゃあ、何がすごいと思う？」と聞き返えすと、たいてい「温水洗浄便座が快適だから」とか「便蓋が自動で空くから」など、ハイテクさばかり挙げられます。そんな時は「それだけじゃないよ」と説明します。

例えば、下水が完備されているとか、トイレトーパーが常置してあるとか、清掃が科学的に行われているとか、多様な状態に合わせた配慮があるとか、災害用のトイレ研究が進んでいるとか、女性専用の仮設トイレが誕生したなど、総合的にハイレベルだと言いたいからです。そしてその背景には「(一社)日本トイレ協会」の地道な研究や啓もう活動があるからだと言っても、過言ではないでしょう、自画自賛ですけどね…(笑)

でも世界には、トイレが無くて困っている国がたくさんあります。まだまだやらなくてはならないことがあります。「トイレ先進国」の誇りを大切に、トイレのあるべき姿を、もっと世界の人と語り合い、適材適所のトイレ文化を広げたいものです。(白倉正子/運営委員/アントイレプランナー代表)

一般社団法人

〒112-0003

日本トイレ協会

東京都文京区春日1-5-3 春日タウンホーム1F-A

JAPAN TOILET ASSOCIATION

Tel 03-5844-6123

URL:<http://www.toilet-kyoukai.jp>

e-mail:[jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp](mailto:jta-jimukyoku@toilet-kyoukai.jp)